

# Mitsui Fudosan 三井不動産 Story

土地の記憶は、  
ひとの心をやわらかくする。

東京ミッドタウンという名前になって、  
街はすっかり新しくなった。  
ある老夫婦がそこを訪れた。  
その新しい街の活気にふたりは戸惑っていた。  
夫はかつてここにあった防衛庁で働いていた。  
妻は近くの大学の施設で働いていた。  
ふたりが過ごしてきたこの街は  
今では時代を先取りする空気に包まれた  
賑やかなエリアになっていた。  
土地というものはいままで新しくなれるものなのか。  
ふたりは顔をみあわせた。  
そしてお互いの戸惑いを笑った。  
東京ミッドタウンのコンシェルジュに自分たちがかつて  
この街で働いていたことを話すと  
彼女はひとつ提案してくれた。  
「昔の土地の記憶、残っていますよ」  
彼女が教えてくれたのはかつてこの土地にあった  
桜や楠を140本も移植してある遊歩道だった。  
ちょうど桜が満開だった。  
ふたりが出会った場所に、まだあの桜が。  
そう思うとなんだかふたりは優しい気持ちになった。

土地の記憶。  
なるほどもしかしたら私たちはそういうものに包まれて  
暮らしているのかもしれない。  
大切にしなければいけないものは  
いつも心の深いところに触れてくる。

いい街には、物語がある。

